

MGI015-02

会場:展示ホール7別室2

時間: 5月24日14:00-14:15

IUGONETメタデータ・データベースで用いるメタデータフォーマットについて

Metadata format utilized for the IUGONET metadata database

堀 智昭^{1*}, 鍵谷 将人², 田中 良昌³, 林 寛生⁴, 上野 悟⁵, 吉田 大紀⁶, 阿部 修司⁷,
小山 幸伸⁶, 河野 貴久¹, 金田 直樹⁵, 三好 由純¹, 中村 卓司³, 岡田 雅樹³

Tomoaki Hori^{1*}, Masato Kagitani², Yoshimasa Tanaka³, Hiroo Hayashi⁴, Satoru UeNo⁵,
Daiki Yoshida⁶, Shuji Abe⁷, Yukinobu Koyama⁶, Takahisa Kono¹, Naoki Kaneda⁵,
Yoshizumi Miyoshi¹, Takuji Nakamura³, Masaki Okada³

¹名古屋大・太陽地球環境研究所, ²東北大・惑星プラズマ・大気研究センター,
³情報・システム研究機構国立極地研究所, ⁴京都大・生存圏研究所, ⁵京都大・附属天文台,
⁶京都大・地磁気世界資料解析センター, ⁷九州大・宇宙環境研究センター

¹STE lab., Nagoya Univ., ²PPARC, Tohoku Univ., ³NIPR, ⁴RISH, Kyoto Univ.,
⁵Kwasan and Hida Observatory, Kyoto Univ., ⁶WDC, Kyoto Univ., ⁷SERC, Kyushu Univ.

IUGONETは日本国内の大学・研究所5機関(7組織)が連携し、全地球上に展開しているレーダー、磁力計、光学観測装置、太陽望遠鏡等を用いた超高層大気の地上観測ネットワークにおいて、これまで長年にわたって蓄積された超高層大気の多種多様な地上観測データに関するメタデータ・データベースを構築する。このメタデータ・データベースには、観測期間、ロケーション情報、記録メディア情報などの観測データに関する情報のほかに、研究者や観測所・観測器、また実データのデータベースについての情報など、関連する研究リソースに関する情報も階層化してアーカイブされる。この際用いられるメタデータのフォーマットは、米国NASAを中心とした国際的なコンソーシアムで開発・整備が行われているSpace Physics Archive Search and Data Extract (SPASE)と呼ばれるデータモデルに基づいたメタデータフォーマットをベースとしている。また超高層大気観測データをより包括的に記述できるように、IUGONET独自の改良を施しており、現在も開発は続行中である。実際には、そのようにして開発される”IUGONET共通メタデータフォーマット”に沿ってメタデータが作成され、データベースにアーカイブされることになる。本講演では、このIUGONET共通メタデータフォーマットの内容や特徴について説明を行う。また講演ではメタデータフォーマット開発の経緯や現状について紹介し、これから開始するメタデータの抽出・収集の展望についても触れる。

キーワード:メタデータ, IUGONET, 超高層, 大学間連携

Keywords: metadata, IUGONET, upper atmosphere, Inter-university research project